

衛生学

【Hygiene】

担当責任者 教授（衛生学）辻 真弓

ねらい

ヒトと環境要因との関連についての十分な認識がなくては、医学が目的とする疾病の予防、健康の増進、寿命の延長は達成できない。実験衛生学の礎は19世紀に築かれ、大気、水、土壌と人の健康とのかかわりが重視されるようになったが、人工の都市集中化や産業の発達により数多くの問題が発生した。近年の環境汚染や職業病などもその一例である。衛生学においては、産業化が進んだ将来を常に考えながら、自然環境、人工環境、労働環境における諸問題に関する基礎知識、生体影響および将来の展望などについて講義、実習を通して学ぶ。これらを通して我々を取りまく環境側の要因の把握およびその影響についての理解を深め、環境と人間とのかかわりに関する基本的および総合的評価ができる目を養う。

学修目標

1. 環境の諸因子を理解するとともに、環境と生体との相互関係を説明できる。(Ⅱ-8)
2. 有害物質の吸収・代謝・排泄、量-反応関係およびリスク評価について説明できる。(Ⅱ-8, Ⅲ-1)
3. 化学的環境と健康、中毒の発生要因と病態生理、環境発がん物質、内分泌攪乱物質等について説明できる。(Ⅱ-8, Ⅲ-1, Ⅲ-5)
4. 大気汚染の事例を知るとともに、大気環境の原因、健康影響、対策などについて記述でき、さらに、我が国における大気環境の現状、環境基準の概要、今後の地球規模での環境問題を説明できる。(Ⅱ-11, Ⅲ-5)
5. 浄水法、下水処理法の概要を知るとともに、上水、放流下水の水質基準とその意義について述べる事ができる。さらに、水質汚濁の原因、影響、対策などについて説明できる。(Ⅱ-11)
6. 気温、気湿、気流、気圧、騒音、振動、光、電磁波等の物理的因子の生活環境および環境中における評価法を知り、その健康影響について記述する。さらに、その対策について説明できる。(Ⅱ-8, Ⅲ-1)
7. 栄養素と疾病について理解し、国民栄養の現状について学ぶ。さらに、食中毒の原因と対策、食品添加物、残留農薬などの安全性評価について説明できる。(Ⅱ-11, Ⅲ-1)

事前事後学習の方法

1. 配布された講義テキストを熟読して講義内容の復習をすること。
2. 実習したことをよく復習して体得すること。

成績評価方法・基準

1. 中間試験、総合試験、レポートなどの成績および出席状況、受講態度に基づき総合的に判断する。
2. A、B、C、D、Fの5段階評価とし、Fを不合格とする。

○教科書

医療情報科学研究所編「公衆衛生がみえる2018-2019」(メディックメディア)

○参考書

日本毒性学会教育委員会編「トキシコロジー(第3版)」(朝倉書店)

厚生統計協会「国民衛生の動向」

岸玲子監修「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版」(南江堂)

2年次

講義:2301, 2302講義室

実習:2303実習室

*の授業項目が感染症対策に該当する

年月日	曜日	時限	授業項目(内容)	コアカリ項目			担当者
				大項目	中項目	小項目	
R3.4.1	木	1	衛生学概論	B	1	6	辻 真弓
"	"	2	化学的因子による健康影響 1.ガス	E	5	3	"
4.5	月	7	物理的因子による健康影響 1.非電離放射線(赤外線)	"	6	1	大津山 彰 (放射線衛生学)
"	"	8	" 2.非電離放射線(紫外線)	"	"	"	"
4.6	火	5	疫学の応用:食中毒発生 1 (※)	"	5	3	郡山 千早 (学外)
"	"	6	" 2 (※)	"	"	"	"
"	"	7	物理的因子による健康影響 3.騒音・振動	"	"	"	田中 里枝
"	"	8	" 4.非電離放射線(電磁波)	"	6	1	大津山 彰
4.9	金	7	化学的因子による健康影響 2.大気汚染	B	1	6	辻 真弓
"	"	8	食物アレルギー	E	4	3	"
4.12	月	1	物理的因子による健康影響 5.暑熱寒冷/気圧による健康障害	"	5	"	北川 恭子
"	"	2	理解度チェックのための演習 物理的因子による健康影響1~5	"	"	"	"
4.14	水	5	産業廃棄物とリサイクル	B	1	6	服部 泰 (学外)
"	"	6	化学的因子による健康影響 3.金属 I	E	5	3	小山 倫浩 (学外)
"	"	7	" 4.金属 II	"	"	"	"
"	"	8	" 5.環境中発がん性物質	"	"	"	"
4.16	金	1	" 6.環境と生体影響	B	1	6	川本 俊弘 (学外)
"	"	2	" 7.化学物質の生体内運命	"	"	"	"
4.27	火	1	食品衛生 (※)	E	5	3	田中 里枝
"	"	2	栄養	B	1	5	"
"	"	3	理解度チェックのための演習 衛生学概論、食物アレルギー・食品衛生・栄養	"	"	6	"
"	"	4	中間試験1 物理的因子による健康影響1~5	E	5	3	辻 真弓
5.11	火	5	化学的因子による健康影響 8.有機物1	"	"	"	香山 不二雄 (学外)
"	"	6	" 9.カドミウム	"	"	"	"
5.14	金	1	職業性疾病①	B	1	6	小川 真規 (学外)
"	"	2	" ②	"	"	"	"
6.2	水	1	生活習慣と疾病	"	"	5	一瀬 豊日 (進路指導部)
"	"	2	水質汚濁	"	"	6	"
"	"	3	上水道と下水道	"	"	"	"
"	"	4	理解度チェックのための演習 生活習慣と疾病+演習 水質汚濁、上水道と下水道	"	"	"	田中 里枝
6.4	金	1	環境毒性学1. 概論	E	5	3	山元 恵 (学外)
"	"	2	" 2. 塩素系化合物の生体影響	"	"	"	"

2年次

講義:2302講義室

年月日	曜日	時限	授業項目(内容)	コアカリ項目			担当者
				大項目	中項目	小項目	
R3.6.4	金	3	環境毒性学3. 重金属の生体影響	E	5	3	山元 恵 (学外)
"	"	4	" 4. まとめ	"	"	"	"
6.9	水	1	実践 大気汚染1. 大気汚染の現状と歴史	B	1	6	高見 昭憲 (学外)
"	"	2	" 2. 大気汚染発生の要因	"	"	"	"
"	"	3	" 3. 大気汚染の影響	"	"	"	"
"	"	4	" 4. まとめ	"	"	"	"
6.17	木	1	化学的因子による健康影響 10.タバコの健康影響	"	"	5	樺田 尚樹 (産業・地域看護学)
"	"	2	" 11.タバコ対策	"	"	"	"
"	"	3	産業医学の基本① 労働衛生管理	"	"	8	川本 俊弘 (学外)
"	"	4	" ② 許容濃度、管理濃度、環境基準	"	"	"	"
7.6	火	3	理解度チェックのための演習 化学的因子による健康影響1~7、産業廃棄物とリサイクル	E	5	3	北川 恭子
"	"	4	中間試験2 化学的因子による健康影響1~7、産業廃棄物とリサイクル	"	"	"	辻 真弓
7.19	月	5	化学的因子による健康影響 12.毒性評価	"	"	"	一瀬 豊日 (進路指導部)
"	"	6	理解度チェックのための演習 化学的因子による健康影響 8~12	"	"	"	田中 里枝
"	"	7	中間試験3 衛生学概論、食物アレルギー・食品衛生・栄養、生活習慣と疾病、水質汚濁、上水道と下水道	B	1	6	辻 真弓
"	"	8	理解度チェックのための演習 職業性疾病①②、産業医学の基本①②	E	5	3	田中 里枝
7.20	火	5~8	実習① 実習レポート提出	B	1	1-8	辻、北川、田中、 一瀬 豊日(進路指導部)
7.21	水	5~8	実習② 実習レポート提出	"	"	"	辻、北川、田中、 一瀬 豊日(進路指導部)
9.7	火	1~4	実習③ 実習レポートのグループ討論	"	"	"	辻、北川、田中、 一瀬 豊日(進路指導部)
9.10	金	5	理解度チェックのための総合演習	E	5	3	田中 里枝
"	"	6	中間試験4 化学的因子による健康影響8~12、職業性疾病①②、産業医学の基本①②	"	"	"	辻 真弓
9.13	月	3	総合試験				辻、北川、田中
"	"	4	"				辻、北川、田中